

乳がん検診の受診及び精密検査の状況

➤ 精度指標項目

「がん検診受診率」 「要精検率」 「精検受診率」 「がん発見率」
「陽性反応適中度」

➤ 算出に使用したデータ

令和3年度地域保健・健康増進事業報告（政府統計窓口e-stat）

➤ 各指標の年度

○がん検診受診率

令和3年度地域保健・健康増進事業報告で示されている令和3年度の
受診率

○要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度

令和3年度地域保健・健康増進事業報告で示されている令和2年度に
おける精密検査の状況から算出

➤ がん検診受診率の計算式

40～69歳（胃がんは50～69歳、子宮頸がんは20～69歳）を対象

■ 大腸がん、肺がん

・ 受診率 = (受診者数 / 対象者数) × 100

■ 胃がん、子宮頸がん、乳がん

・ 受診率 = (前年度の受診者数 + 当該年度の受診者数 - 前年度及び当該年度における2年連続受診者数) / (当該年度の対象者数) × 100

※平成30年度から、国民健康保険被保険者のうちがん検診を受診した者を把握

➤ 各プロセス指標の計算式

40～74歳（胃がんは50～74歳、子宮頸がんは20～74歳）を対象

・ 要精検率 = 要精検者数 / 受診者数 × 100

・ 精検受診率 = 精検受診^{※1}者数 / 要精検者数 × 100

精検受診者数 = 要精検者数 - (精検未把握^{※2}者数 + 精検未受診^{※3}者数)

・ 精検未把握率 = 精検未把握者数 / 要精検者数 × 100

・ 精検未受診率 = 精検未受診者数 / 要精検者数 × 100

・ がん発見率 = がんであった者の数 / 受診者数 × 100

・ 陽性反応適中度 = がんであった者の数 / 要精検者数 × 100

※平成28年度から、「がんであった者」の表記が「がんであった者(転移性を含まない)」に変更され、原発性のみを計上

➤ 各指標を検討する際の留意点

各指標を検討するにあたっては、「がん検診に関する検討会中間報告 市町村事業におけるがん検診の事業評価の手法について（平成19年6月）」を参考に評価することが必要である。

・ 精検受診率以外の指標は、人口構成による違いや継続受診者の比率などの影響を受ける。
・ 要精検率、陽性反応適中度は、受診者の性・年齢、受診歴等のほか、検診実施機関の精度等の影響を受ける。

・ がん発見率は、有病率や早期がん割合等も踏まえて評価することが必要である。

<乳がん検診（受診率40～69歳、受診率以外40～74歳）：各指標の許容値及び目標値>

	受診率	要精検率	精検受診率	精検未受診率	精検未把握率	がん発見率	陽性反応適中度
許容値	—	6.4%以下	—	—	—	0.31%以上	4.8%以上
目標値	50%以上	—	90%以上	0%に近い方が理想	0%に近い方が理想	—	—

※出典：受診率の目標値「第3期がん対策推進基本計画」（平成29年10月）：職場・人間ドック含む受診率以外の許容値・目標値「がん検診事業の在り方について」（令和5年6月）

■ 各指標の達成状況

受診率※	要精検率	精検受診率	精検未受診率	精検未把握率	がん発見率	陽性反応適中度
43.7% (17.9%)	4.88%	95.6%	1.1%	3.3%	0.36%	7.44%

※ () 外は国民生活基礎調査の令和4年受診率（40歳～69歳）
 () 内は地域保健・健康増進事業報告の令和3年度受診率

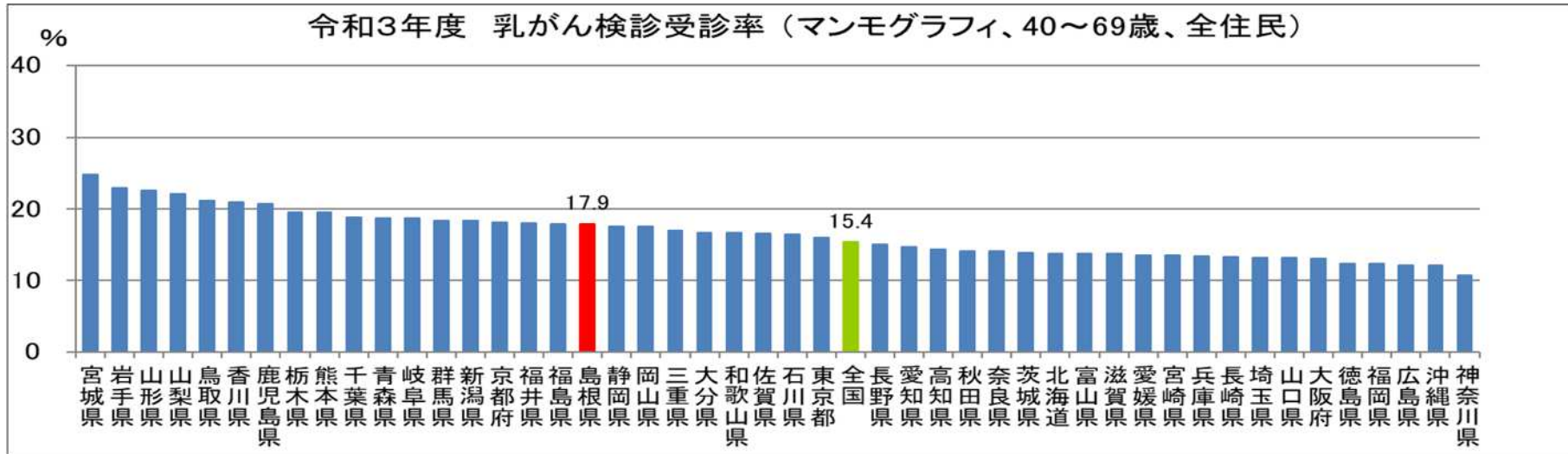
 達成

 許容値～目標値の間

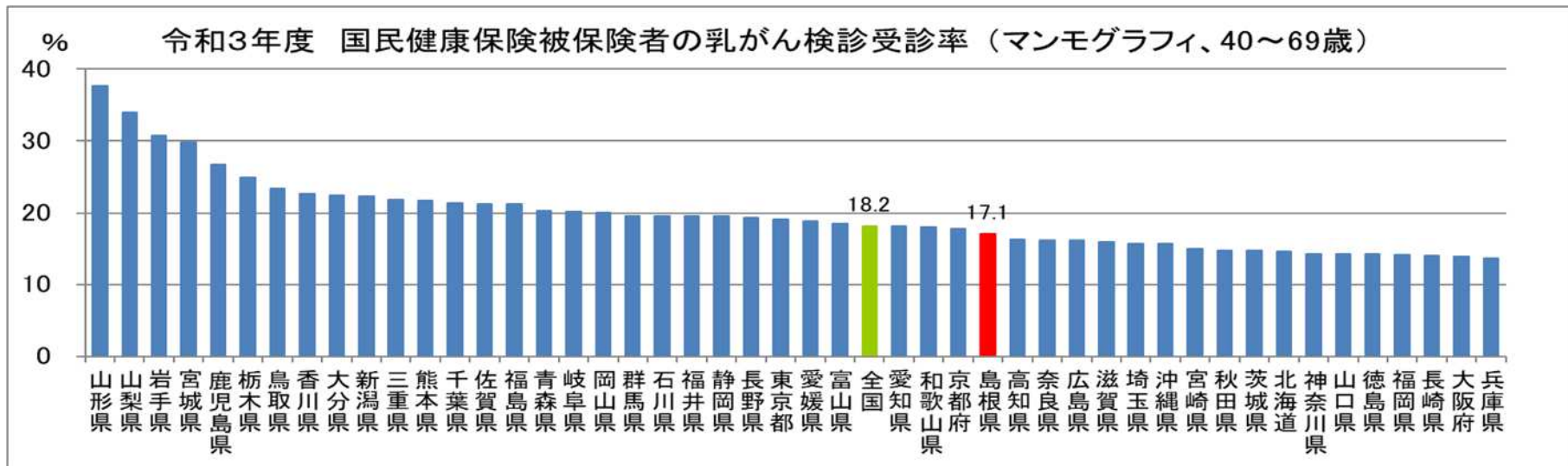
 未達成

(資料：市区町村表 第20-4表)

➤乳がん検診受診率（全住民対象、40～69歳）は17.9%と、全国より高い

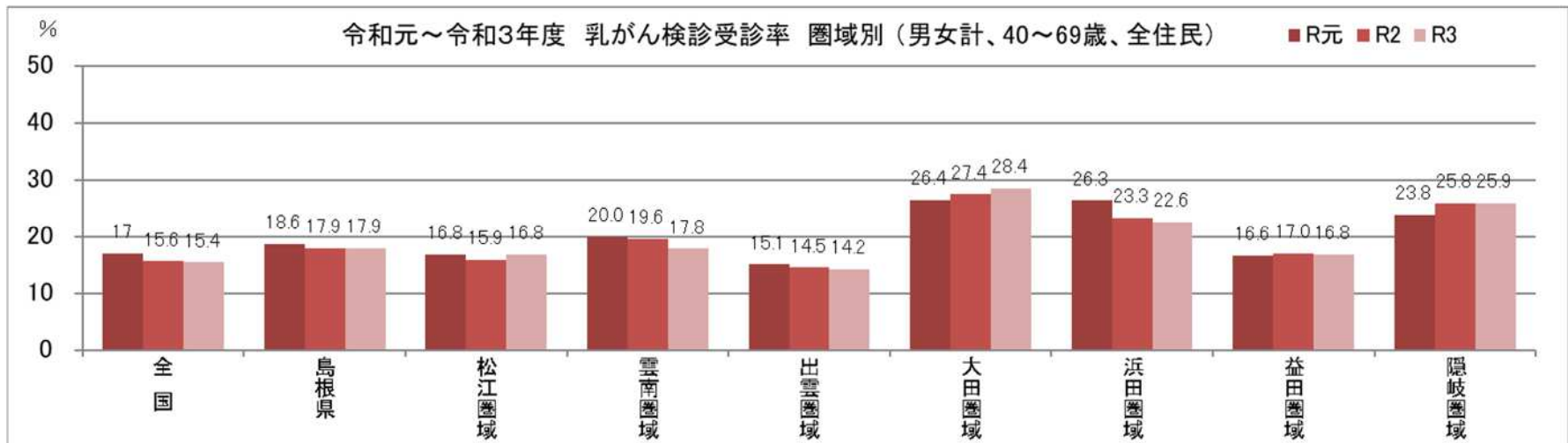
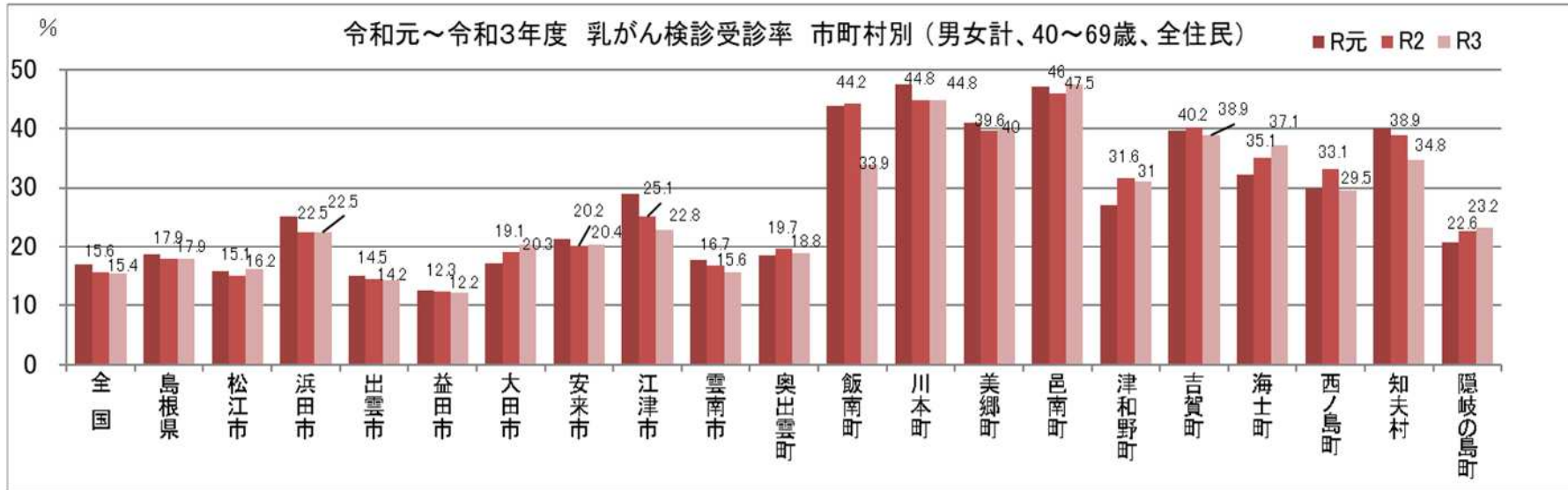


➤国民健康保険被保険者で乳がん検診を受けた者は17.1%と、全国より低い



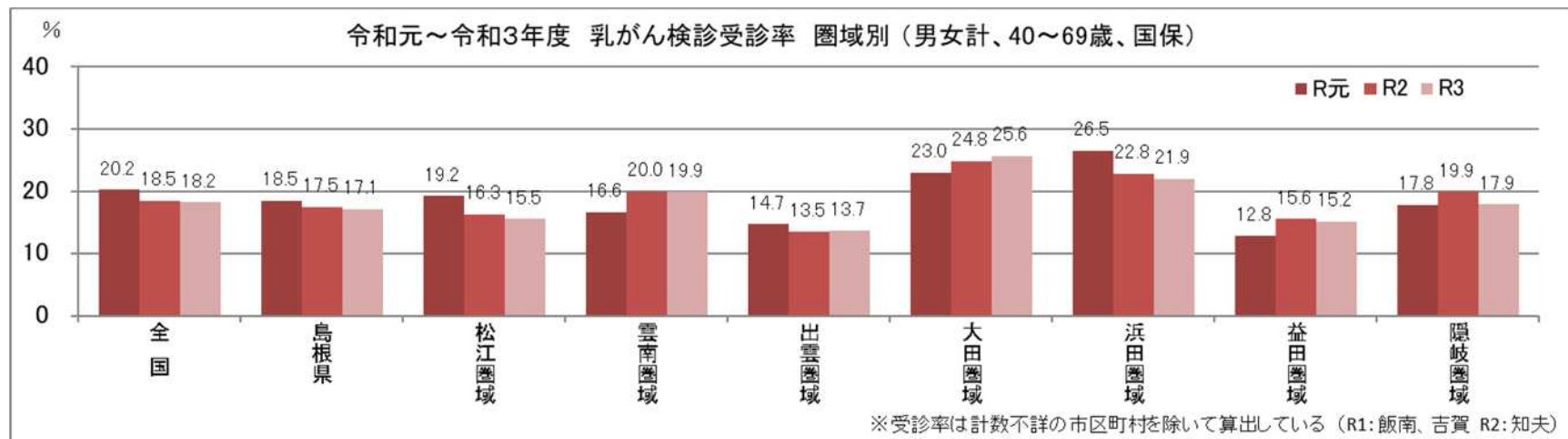
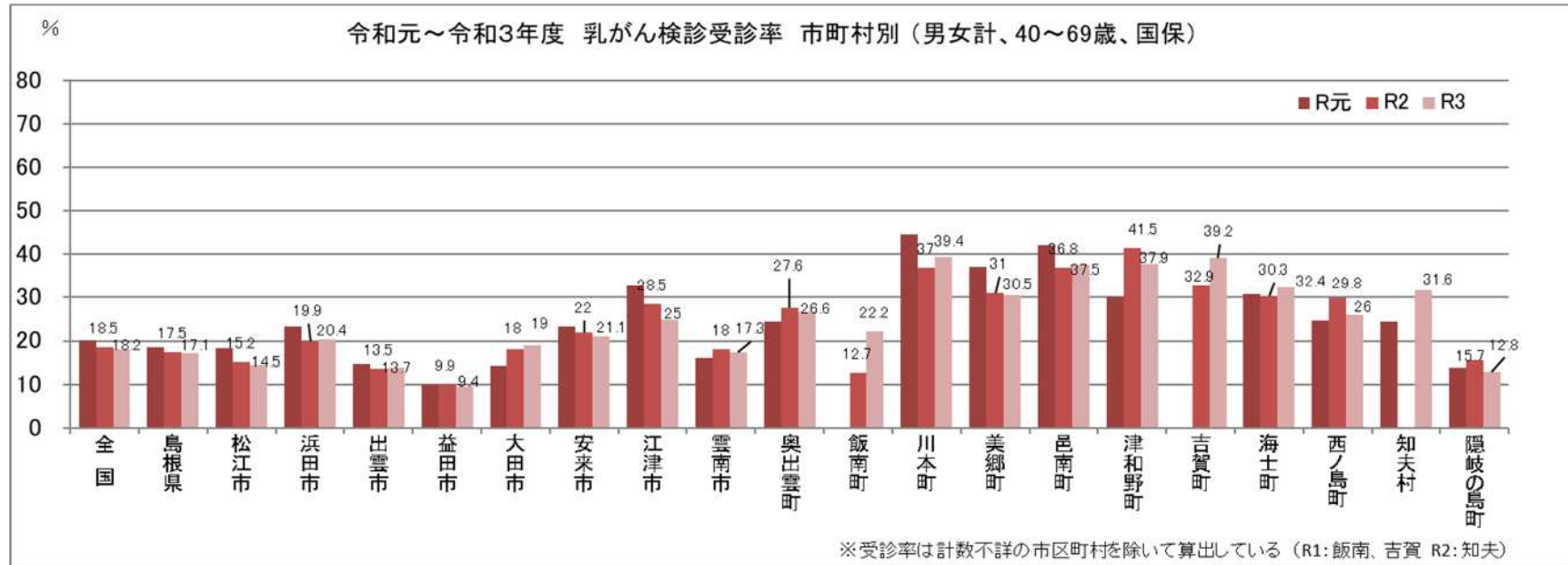
(資料：市区町村表 第20-4表)

① 全住民



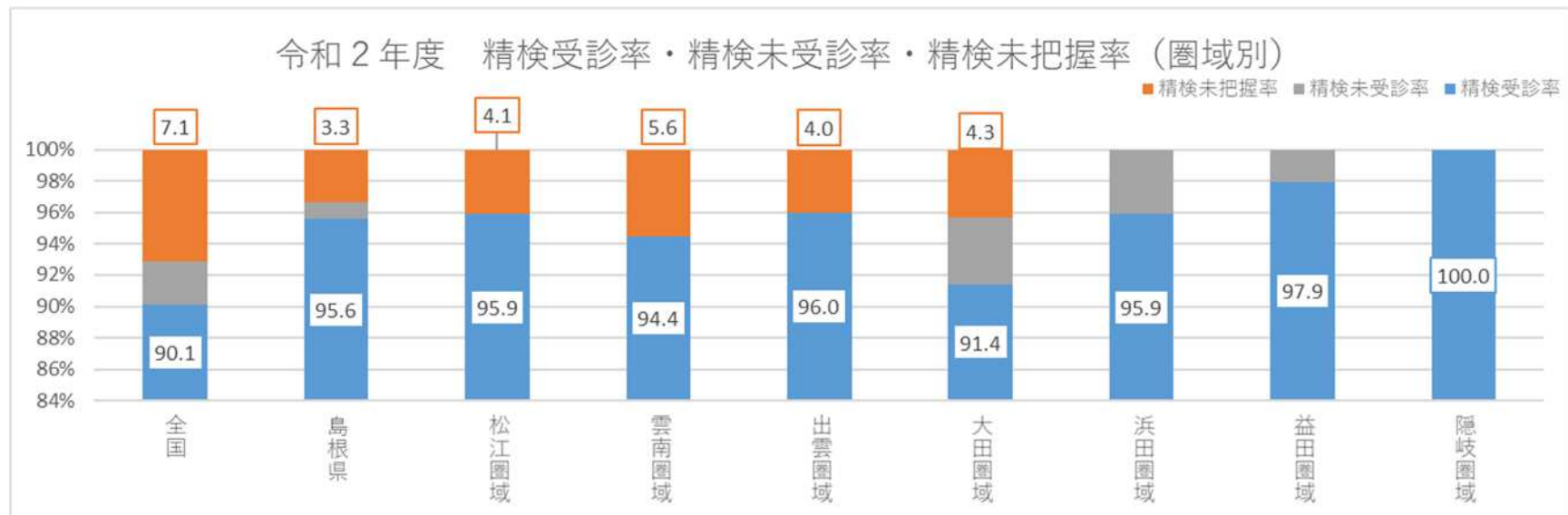
(資料：市区町村表 第20-1表)

② 国民健康保険被保険者



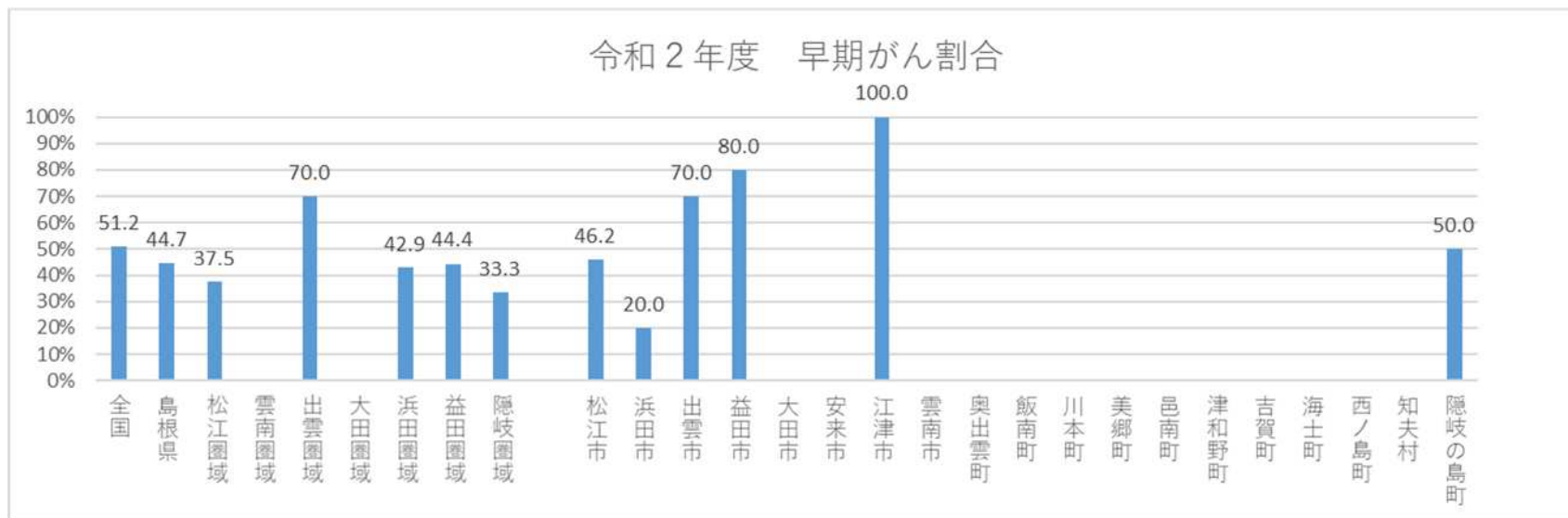
(40-74歳)

(資料：市区町村表第34-1表)



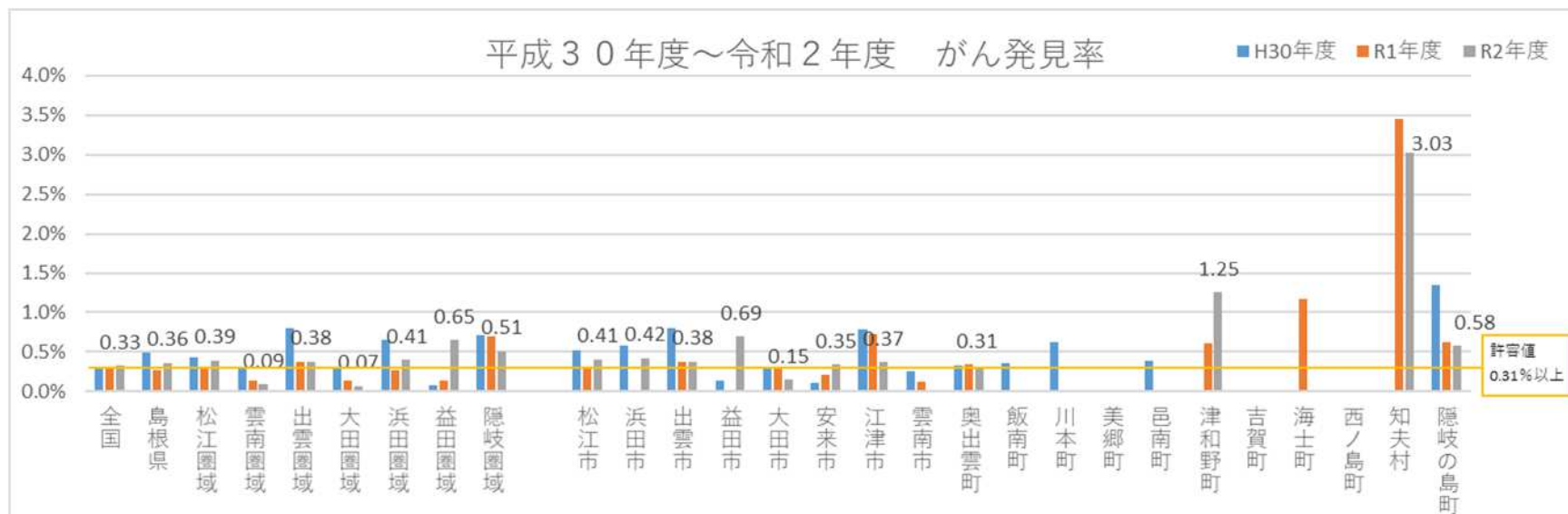
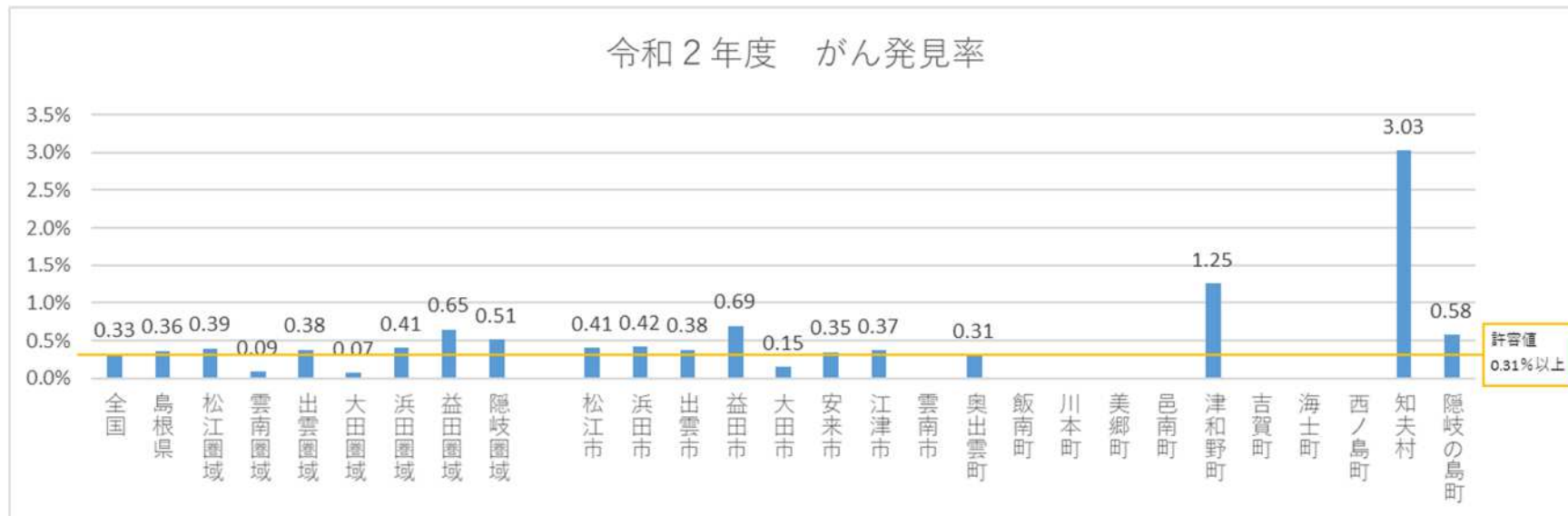
(40-74歳)

(資料：市区町村表 第34-1表)



(40-74歳)

(資料：市区町村表 第34-1表)



(40-74歳)

(資料：市区町村表 第34-1表)

